

開催地名	滋賀県日野市
開催日時	令和6年2月24日（土） 19：00 ～ 21：00
開催場所	日野公民館ホール
語り部	望月 文 （福岡県朝倉市）
参加者	地域住民、防災士、行政職員、議員 50 名
開催経緯	当町では、南海トラフ巨大地震による被害が想定されており、発生時には一定の避難者が想定されている。地域の特性として高齢者が多く、行政機能でカバーしきれない部分については、地域コミュニティでの共助が重要となる。しかし、地区により防災への取組には差があり、全ての地区で十分な体制が取れているとは言えない現状であるため、行政関係者の初動体制とともに共助への理解が大きな課題となっている。 今回、語り部の講演をきっかけに、災害発生時における地域コミュニティでの共助の重要性について学び、住民の意識向上につなげたい。
内容	『まさか』を意識できる地域の強さ （１）災害ボランティア団体の発足 平成 29 年、北九州北部豪雨をきっかけに福岡県朝倉市で災害ボランティア団体を立ち上げた。経緯としては北九州豪雨災害時、人に頼まれて梨農家の高齢者夫婦の様子を見て来て欲しいと頼まれ、見に行ったところ、ほとんど流されてしまっていたが、無事だった梨をボランティアで代わりに販売したのだが、その時に他のボランティア団体に手伝っていただき、人と人との繋がりが、いかに大切なのかということを痛感し、そのことを忘れないためにも団体を作ったのだ。ただし、ボランティアは何でもできるというわけでない。あくまで仮復旧担当で業者が作る（復旧）ための準備をするのがボランティアの本質である。 （２）平成 29 年、朝倉市の大規模災害について 平成 29 年、朝倉市での大規模災害時には、死者 33 名、行方不明者 2 名、建物被害 1471 棟、という甚大な被害を被ってしまった。雨はたった 1 日しか降ってないのにも関わらず、被害復旧には何年もかかるので現実である。発災時において、やはり『自助』『共助』『公助』の 3 つの連携が大事である。 この大規模災害を受けて良かった点としては、大きく 3 点挙げられる。 1 点目としてボランティア数が、半年間で延べ約 6 万人と大幅に増加した経緯がある。 2 点目『コミュニティマッチング』といい、地域の人がボランティアを振り分けることにより、行政などの指示を待つよりも迅速に対応できたことが評価に値する。 3 点目に権限代行が挙げられる。元々、地方自治体が行うべきことを国が代わりに行うことで、大きいお金を動かすことができ、他に比べて復旧が早かったことは明白である。 逆に反省点も 3 点ほど、浮き彫りになったので今後の改善策として地域で取り組んでいく。 1 点目に防災避難と備えについて周知できていない事が多すぎて、迅速な対応、動きが

	求められる場面で、無知の状態が足枷になったシーンが垣間見えた。 2点目に地域別の課題が挙げられる。初動対応次第で復旧の早さが決まるので、先ずは知ることから始めないといけない。 最後に関係機関の連携もとても重要である。窓口がバラバラすぎて、被災者も、ボランティアもどこに連絡したらいいのか分からず、その後の対応全てが遅れてしまうので、連携を取るために横の繋がりは大事にするべきだ。 (3) その後 また朝倉市はその後、令和3年の小規模災害や令和5年の中規模災害を経験し、防災についてかなりの意識を高めることに成功した。その中でも、まだまだ反省点はきりがなくくらいに浮き彫りとなる。例えば、役所などの担当が変わることによって、経験の蓄積ができない。情報協議が減り、繋がりを強化できていない。担当が変わり、初動対応が遅れる。コミュニティマッチングができてない。等が挙げられる。 今後の課題として、より一層改善に努め防災について1人でも多く周知できるように活動を継続することが大切である。また助言として、ボランティア活動などには積極的に参加していただき、自分の五感で感じて、蓄えた知識を自分たちの地域発展にも生かしてほしい。
開催地より	様々な被災地支援活動の経験談とともに、地域力の重要性や避難所運営について詳しく話を伺えた。今後、住民一人ひとりの防災意識向上のための取り組みを強化するとともに、避難所運営をはじめとした職員の判断力、決断力、行動力を育成したいと考える。